

「卒業生のことば」では、卒業生を代表して、山本莉子さんが話をしました。山本さんは、証（あかし）の歌詞と共に3年間を振り返ります…。

自分たちの力で計画し活動をやりきった岐阜市内班別研修、自分たちが住む川島を美しくしたいと願ってスタートした登校清掃ボランティア…。日常生活での合唱や掃除において、誰かが見ていなくても、こつこつとひたむきに活動を続けることのできるよさを磨いてきたことに改めて気付きました。卒業式での合唱を聴いて、改めて伝統を引き継ぐ重みを実感し、そしてスタートした最高学年。その中でも、気負うのではなく、目の前のこと一つ一つに誠実に全力で取り組むことで、3年生としての力を高めてきました。



中学校生活最後の体育大会。団長、副団長を中心に縦のつながりを強め、後輩に言葉と姿で思いを伝えました。全力でグラウンドを走り回り、声を限りに応援しました。私たちの学級は、当日思うような結果にはならず、悔しい思いをしました。しかし、何度縄に引っかかっても、私たちの後ろには、青団の後輩の全力の声援が響いていました。事前取組から全力で取り組み、姿で示せたから後輩がついてきてくれたのだと思います。どの団も、どの仲間も、悔いのない最高の体育大会となりました。思い返すと、私たちが立ち止まり成長しようとするときは、いつも仲間の思いに心をつき動かされてきたような気がします。

受験生になってからは、プレッシャーからイライラして、冷たい言葉を父母に投げかけてしまったこと、それでも、試験会場に向かう自分たちにいつもより少し豪華なお弁当をもたせてくれたこと、いつもと同じ卵焼きの味が、緊張する自分たちをほっとさせてくれたこと、一番心を許せる相手だから、素直な気持ちを、本当の気持ちを言えなくなってしまっていることへお詫びをし、それでも温かく見守ってくれていることに感謝します。

そして、最後は121名の仲間たちへのメッセージ。朝学校へきて、顔を合わせ、授業で共に学び合ったり、歌ったり、掃除をしたり、時にはくだらないことで笑い合ったり…多くの活動を共にし、多くの思いを共有してきました。でも、今日からは、それぞれが自分の目標を持って違う道を進んでいきます。その道の中に、今隣に座っている仲間はいません。私は、少し不安な気持ちがあります。～「またね」って言葉のはかなさ、叶わない約束、いくつかわしてもなれない、なのに追憶のかけらを敷き詰めたノートに君のいないページはない～今後の人生、思いもよらない挫折や困難が、私たちの前に訪れたとしても、この川島中学校で過ごした仲間との絆と、未来への希望を胸に、力強く歩んでいきます。「ありがとう またいつか」

卒業式の後には、『卒業記念活動』がありました。青井汰樹さん、苺谷柚璃さんから活動の紹介や歌に込めた思いの紹介があり、「証」「河口」の合唱披露がありました。言葉にできないほど素晴らしいもの…とよく言われますが、まさにそのような合唱でした。迫力があり、強い思いのこもった素晴らしい合唱でした。



